

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第34回『「毅然とした態度」～ 宣べ伝えるため ～』

先週末（2020年12月5日）はZoomによる第4回『日本地域医療連携システム学会』（テーマ『コロナ禍における地域医療を考える』（岡山大学））に赴いた。筆者は、講演『医療者の人材育成』～立場を超えて集う「交流」の場～の機会が与えられた。早速、「今日は、画面上でしたが先生とお会いでき、嬉しかったです。」「コロナが収束したら、先生の講演会に参加させていただきたいです。今日はありがとうございました。」「優しい樋野先生のお顔を久しぶりに拝見出来、嬉しくホッコリしました。」「貴重な講演を拝聴出来 感謝申し上げます。」「本日の「第4回地域医療研究システム学会」を妻と二人で聴講することが出来ました。——さらりと先達の恩師の教えに「がん哲学外来」のスタートから、全国にカフェが広がることの確信を えることが出来ました。——「がんと共存しつつも今を生きる気持ちの確認」をできる講演ありがとうございます。』との暖かい応援のメールを、仙台、東京からも頂いた。

2020年12月6日『樋野動物園』の企画による東京都恩賜『上野動物園の旅』に、wifeと参加した。ゴリラ、パンダ、ゾウ、カバ、トラなど多数の動物を見学した。約350種とのことである。まさに、「個性と多様性」の学びの楽しい時であった。その後、東京「上野恩賜公園（上野公園）」の薩摩犬の愛犬「ツン」を連れてくる西郷隆盛像を見た（画像1-3）。西郷隆盛（1828-1877）の死後21年が経過した1898年の12月18日に除幕式であったとのことである。製作から120年は超えている。「毅然とした態度」である。「あなたがたが宣べ伝えるためです。」（第1ペテロ2章9節）を実感する。



画像 1



画像 2



画像 3